

優秀賞

●技術部門(リフォーム工事)

題名

時をつなぐ家

所在地 出雲市

建築主 個人

設計者 有限会社江角建築設計事務所 代表取締役 江角 健治

施工者 株式会社フクダ 代表取締役社長 長岡 秀治

提案概要 (提案者：設計者)

数年前まで田畑に囲まれた静かな集落の中にたたずんでいた築130年を経過した古民家が道路拡幅に伴い移転を余儀なくされました。

施主家族は、代々守ってきたこの家の現状を残しながら改築することを選びました。

施主側からの耐震及び安全(防犯)性の確保、ランニングコストがかからない設計、既存の使える物や部分の有効利用等の性能部分の要求と、内外観、大和天井、門や庭等出来るだけ残して欲しいという心の部分の要求のもとに、*FM(ファシリティーマネージメント)の手法を用いて設計監理を行いました。

不要部分を解体後、一度敷地外へ曳き家し、盛り土と柱状改良を行い耐震基礎の上に母屋を戻しました。屋根、外装を解体し腐食部分調査後、部材取替や各種補強や置き小屋の梁への緊結や小屋筋交いの増設等現行法以上の補強を行いました。

現在遺跡調査中で道路は出来ていないが県土整備事務所より完成道路の状況や通行予測、各種図面等の提示を受け様々な部分に配慮することが出来たことに感謝したい。そして様々な方々の知恵と力で、さらに100年住める家を造ることが出来ました。

*FMとは…企業・団体等が組織活動のために施設とその環境を総合的に企画・管理・活用する経営活動

選定理由

施主は築130年の古民家を存続しながら、改築することを望んだ。敷地周辺は洪水に被災を受けやすく、地盤が弱い。これらの要望に応えるため、古民家の不要部分を解体し、曳き家をし、盛り土と柱状改良を行い、耐震基礎の上に母屋を戻している。屋根や外装を解体して腐食部分調査後に補強し、ライフスタイル・バリアフリー・環境に配慮した計画・設計を行っている。改修前の面影を残して現在及び今後の生活に対応しようとする設計内容は、モデル事例として高く評価できる。



改修後全景



改修後玄関



解体直前の母屋



改修後の和室



曳家準備



主要部の補強

奨励賞

●技術部門(リフォーム工事)

題名

石見瓦再生の家

所在地 鹿足郡

建築主 個人

設計者 株式会社リンケン 代表取締役 田村 浩一

施工者 株式会社リンケン 代表取締役 田村 浩一

提案概要 (提案者：設計者)

93歳になる母親が私の生まれた年に建てた、築56年を経た住まい。

障子と襖だらけのただっ広い普通の農家住宅は、冬はすきま風が入り込みいくら暖房を入れても温もらず、梅雨時は、じめじめとカビ臭い劣悪な環境で暮らしてきた。

まだまだ頑丈そうな建物は、壊して建て替えるには僥倖が多く、母親の同意も得られそうにも無い。この状況を打破したく思い切った大改修を考えた。

屋根の葺き替えに合わせて太陽熱利用の暖房・換気システムを採り入れた。床を剥がし防湿、蓄熱、耐震を考慮した全面コンクリート打設を施した。外観の面影は残しながら木製ペアガラス建具、外断熱充填で温熱環境の向上やあまり使われない和室続き間の一室を板貼りにし、家の中を貫く東西軸の中廊下を取り込み南北軸の吹き抜けリビングに大胆に変貌した。北面の裏庭に開く大開口の風景は気に入っている。

選定理由

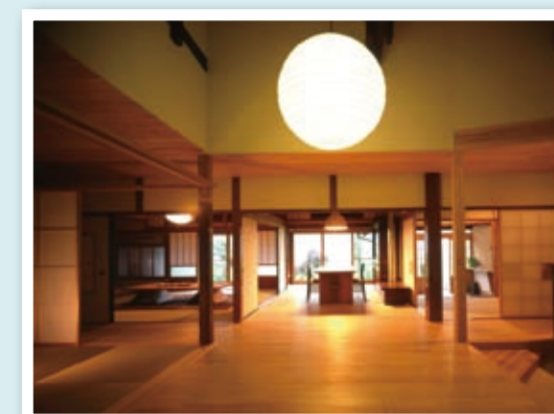
築56年の一般的な農家住宅(田の字型プラン)を、現代風到大改修している工事である。「母屋」と「離れ(倉)」を巧く結びつけ、「離れ」の利便性がアップしている。屋根は葺き土を使用した石州瓦葺きを棧瓦葺きに改修し、屋根の軽量化を図り耐震性を向上させている。屋根の改修例としてのモデルとなり、耐震性向上の波及効果も期待できる。また、改修後のファサードは、以前の面影をよく残しており、周囲との調和も図られている。



改修後南面



改修後玄関



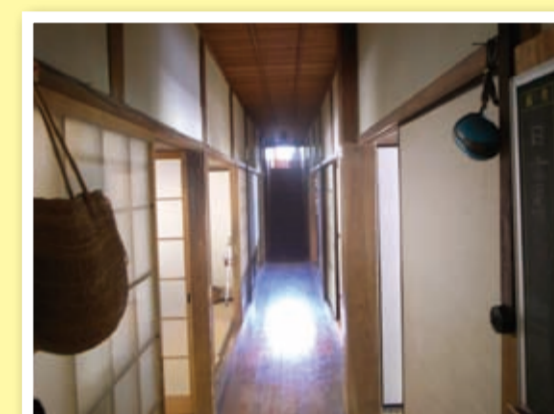
改修後リビング



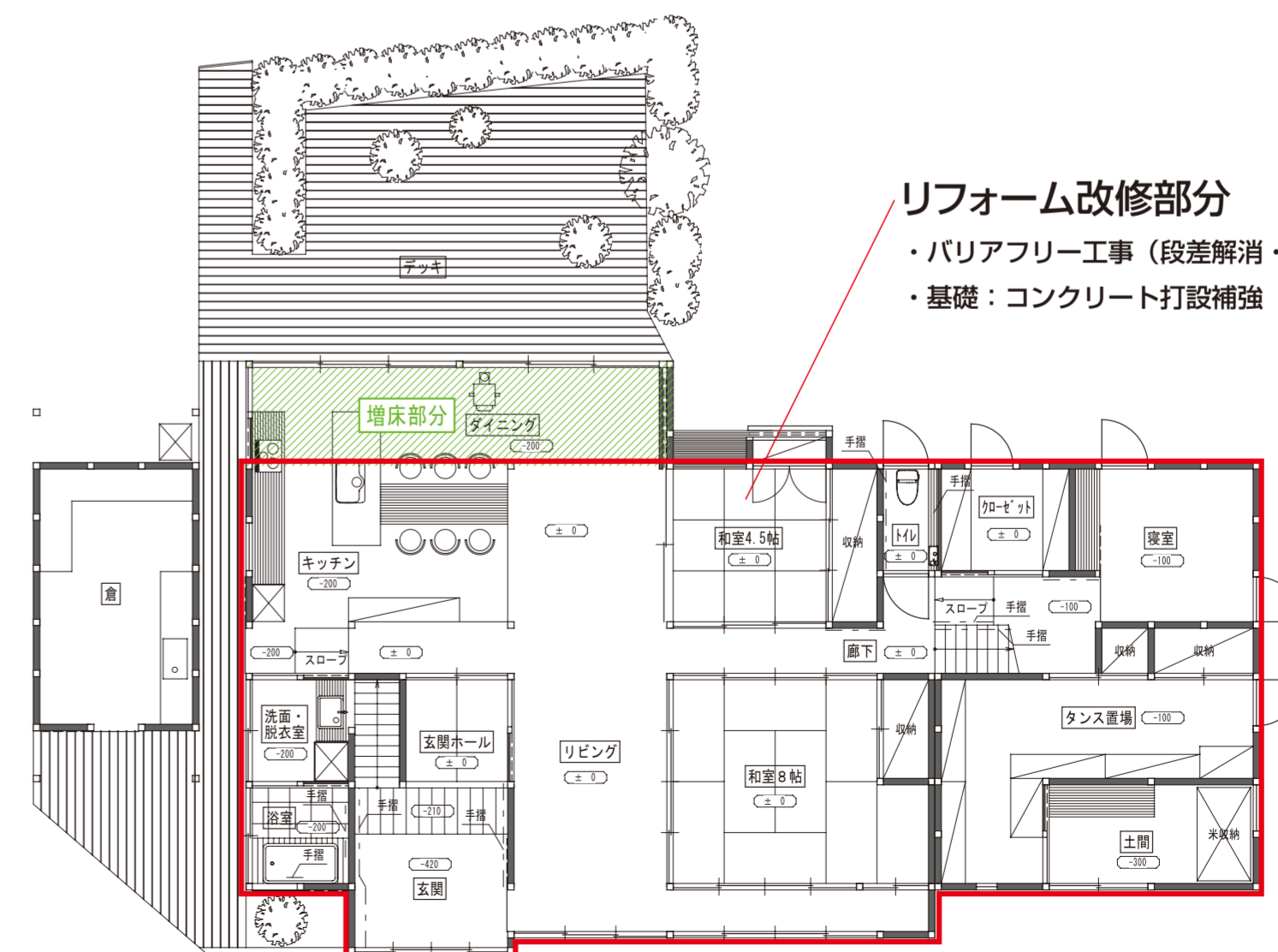
改修前南面



改修前和室6帖



改修前中廊下



リフォーム改修部分

- ・バリアフリー工事(段差解消・手すり設置等)
- ・基礎:コンクリート打設補強 等

奨励賞

●技術部門(新築工事)

題名

木の香の家 (K邸)

所在地 浜田市

建築主 個人

設計者 株式会社古藤工務所 代表取締役 古藤 辰雄

施工者 株式会社古藤工務所 代表取締役 古藤 辰雄

提案概要 (提案者：設計者)

この住宅は、「*しまねの木の家」づくりバックアップ事業適合住宅として、構造材に県産材（主に桧・松）を96.9%使用し、伝統的軸組工法で建築しました。

小屋組は、重厚な県産材をふんだんに使用し、構造上も耐震性に優れた造りとなっています。

また造作の押入内部に杉板を全面に貼り、木材の吸湿性などの良い点を十分に生かしていますし、玄関ホールや廊下の腰壁にも杉板を張り、欄間や建具との調和もとれ、「木の温もり」を感じさせるデザインとなっています。

屋根には、地元の石州瓦を使用し、来待色の屋根瓦と純和風の外観は、周囲の緑の田園風景と見事な調和を生み出しています。

また環境面にも配慮し、オール電化・太陽光発電システムを導入し、空気を汚さない周りの環境にやさしい住宅が完成しました。

*しまね木の家とは…県産木材を利用した地場の木造住宅建築の推進のために、県と業界がともに推奨する木造住宅の仕様

選定理由

在来工法の多く見られる地域の特性を活かし、伝統軸組構造に県産木材を使用することにこだわった新築事例である。「しまねの木の家」に適合した住宅の中でも、非常に県産木材の使用量が多い点も評価が高い。近年、新築住宅を伝統軸組工法を用いて建てるケースは少ない。優れた技術を必要とする従来の伝統工法を継承したモデル事例として期待される。



妻側全景



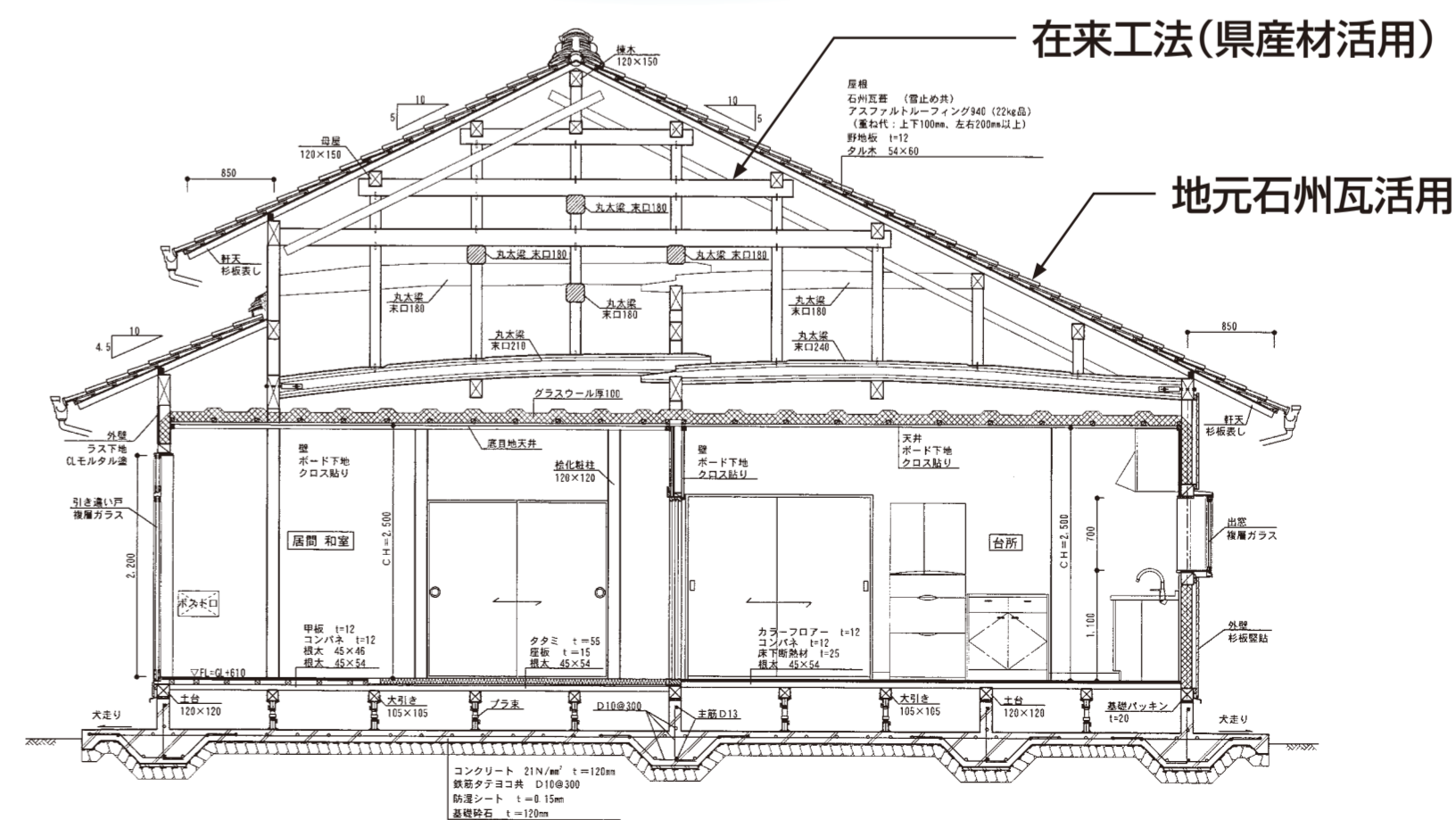
太陽光発電システム



大黒柱小屋組み



玄関ホール



奨励賞

●技術部門(リフォーム工事)

題名

古民家劇的大改造

所在地 松江市

建築主 個人

設計者 円建創株式会社 代表取締役 安達 盛二

施工者 円建創株式会社 代表取締役 安達 盛二

提案概要 (提案者：設計者)

松江城の眼下、堀川と四十間堀川に挟まれて、歴史を刻み松江風情を残した閑静な住宅街にひっそりとたたずむお住まい。築後 80 年にならんとする平屋の古民家です。

今回の計画は、台所、脱衣、浴室の水廻り空間の改造。理由としては、暗い、狭い、使い勝手が悪い、床レベル・柱の立ちが悪い、更にシロアリ被害の修復、耐震補強、断熱施工などです。

現状調査を入念に行いその結果、1. 床下全面修復（通風口増設・全面備長炭敷き） 2. 柱の取替と梁補強 3. 耐震補強 4. 床全面レベル直しと柱の立ち直し 5. 床・壁・天井の断熱工事 6. 動線を重視した大幅な間取りの変更 7. 全箇所県産無垢材 8. 光・風の道を重視した間取り・抗酸化技術による癒し健康空間の実現（敷炭・※ SOD リキッド噴霧・自然素材利用） 9. 家族団らん・寛ぎを意識した空間の実現（大空間リビング・掘ごたつ形式・台所一体化型）を提案しました。

「家族のたまり場」としての要素と「来客のもてなしの場」としての要素を併せ持った、感動の癒し健康空間が実現出来ました。

(しまね長寿の住まいリフォーム助成事業活用)

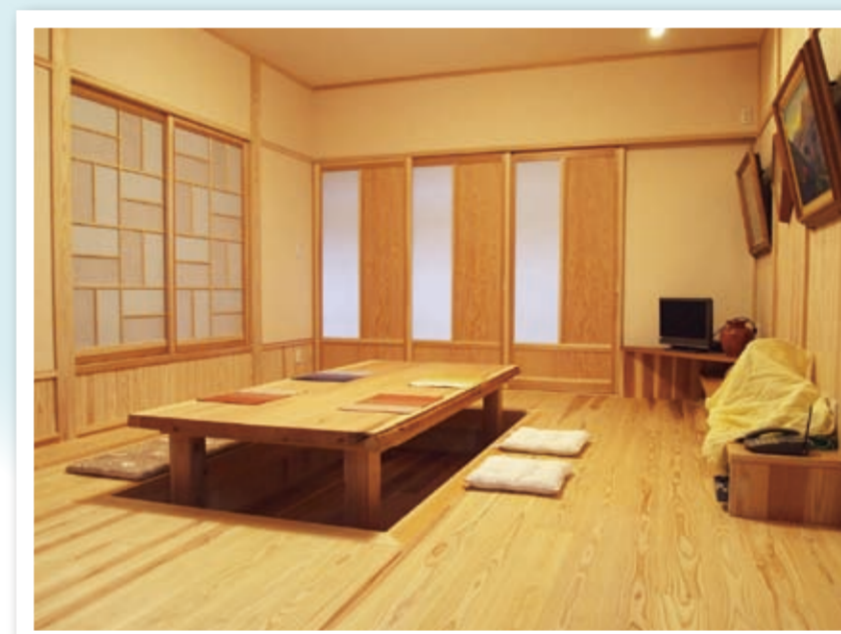
※ SOD リキッド噴霧…人体に有益な、遠赤外線を効率よく放射する物質である動植物プランクトン化石と海洋成分ミネラル天然素材を使用し、加工・液状化したもの

選定理由

築後 80 年の平屋の古民家のリフォーム改造事例である。以前の古い民家は、接客重視で、従来の台所は暗くて使い勝手が悪く、2世帯で暮らすメリットを生かしきれなかった。そこで「家族のたまり場」と「来客のもてなし」を重視した計画により、世代を超えた家族同士や来客者にも心地よい空間を提供している。市街地に多く見られる古民家の再生モデルとして波及効果が期待される。



居間改修前



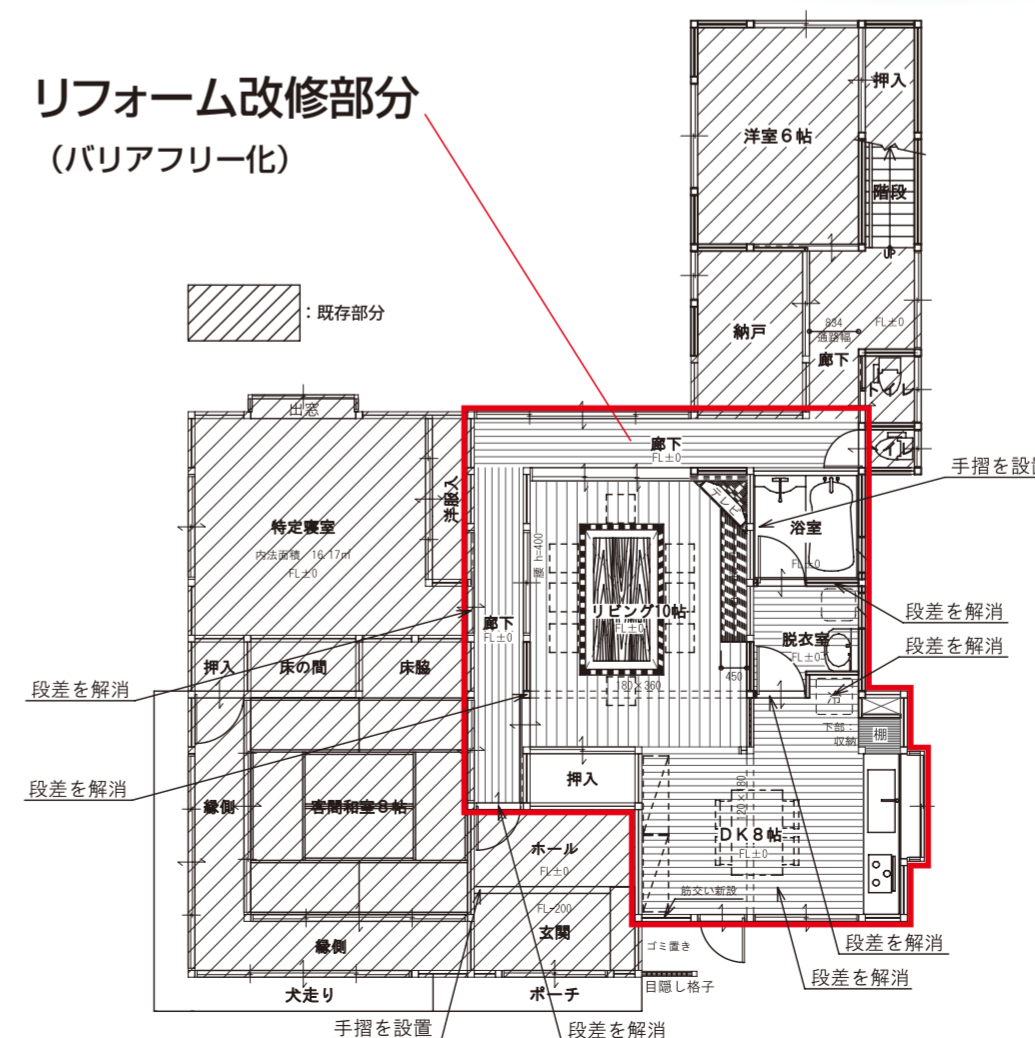
居間改修後



廊下改修前



廊下改修後



奨励賞

●技術部門(リフォーム工事)

題名

A 邸増改築工事

所在地 松江市

建築主 個人

設計者 成田建築設計事務所 所長 成田 光男

施工者 まるなか建設株式会社 代表取締役 中筋 廣昭

提案概要 (提案者：設計者)

築後 32 年、一戸建て住宅の増改築工事です。

建築主は、長年の通勤族生活に定年で終止符を打ち、相続した 30 年物（家）を何とか現代の生活にフィットするよう間取りの大転換を希望されました。

これを機会に耐震リフォームとバリアフリー化も提案し、リフォーム後は新築と同等の住み心地を得られるよう心掛けました。

具体的には、玄関アプローチの位置転換と、DK と客間のトレードで生活感と気分の一掃を図り、トイレと浴室のフラットフロア化や階段の緩勾配化で、老後の生活に備えました。

耐震化は、主に外壁と屋根の更新による劣化係数の向上及び**接合部仕様をⅢから一ランクアップのⅡへ向上させる事でほぼ達成させ、残りは筋交いや耐力面材の追加配置で補いました。

結果としては、断熱化による省エネや、サッシュ、外壁、トタン屋根の石州瓦による住宅内の静粛性の向上に等の副産物も評価をいただいております。

(松江市木造住宅耐震化等促進事業補助制度活用)

※	I	平成 12 建告 1460 号に適合する仕様（ホールダウン金物）
	II	3kN 以上（羽子板ボルト山形プレート等）
	Ⅲ、Ⅳ	3kN 未満（短ほぞ差しかすがい打）

選定理由

元々の計画していたリフォーム工事に併せて、住宅のバリアフリー化と耐震化を同時に行っている点が高く評価できる。県内では未だ実績の少ない耐震改修工事を他のリフォーム工事と併せて実施する手法は、今後の県内の木造住宅の耐震化率を推進のモデルケースとなる。



着工前布基礎



工事中筋交い



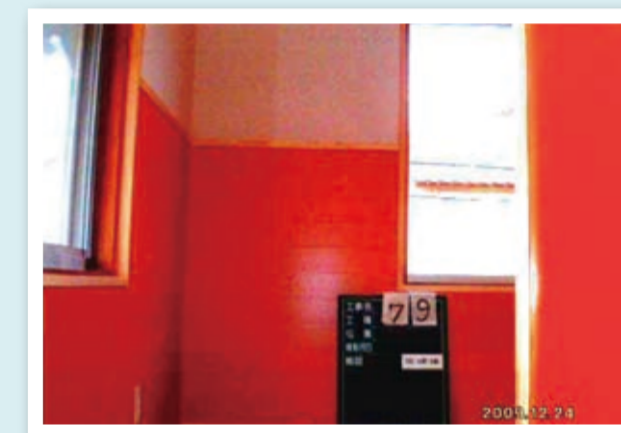
工事中筋交い



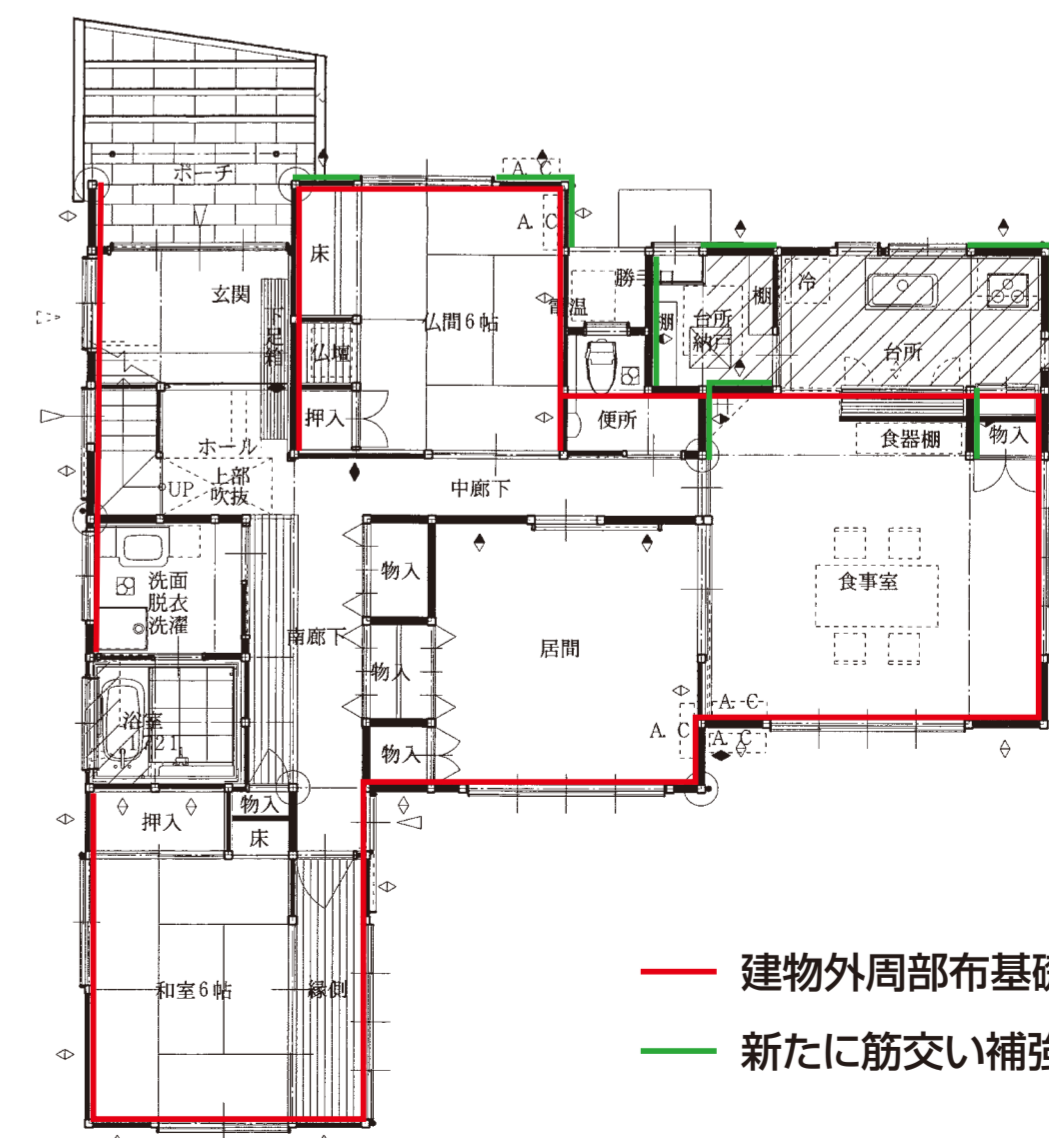
完成後布基礎



完成後壁面



完成後壁面



奨励賞

●活動部門(地域防災活動)

題名

緊急地震速報を活用した県内初の避難訓練

所在地 松江市

活動主体 松江市立第三中学校 校長 塩川 寛

提案概要

緊急地震速報は想定震度5弱以上の場合、震度4以上となる地域を対象に予想震度を発表する早期警報システムで、2007年10月より気象庁がテレビやラジオなどメディアを通じて情報提供を開始しています。

従来の学校での避難訓練では、避難経路の確認と避難に要する時間を重視したケースが多かったが、今回、県内初の試みとして松江地方気象台に全面的にご協力頂き、実際の緊急地震速報に即した訓練としました。

地震防災訓練は2010年10月15日(金)に実施。

全校生徒約320名は、教室で緊急地震速報の放送を聞き、ドアなどを開放し避難路の確保、カーテンを閉めて窓ガラスの飛散防止、机の下に体を隠して安全確保に努めました。

その後、揺れが収まったとの放送後、体育館へ避難しました。その後松江地方気象台の職員さんに訓示も頂きました。

毎年、通常の避難訓練は年3回、地震防災訓練は年1回行っております。

選定理由

この訓練の特徴は、緊急地震速報を活用した避難訓練を県内で初めて実施したことである。生徒・教職員が緊急地震速報を用いた避難訓練を体験していることは、実際の地震発生時における避難の際にとっても重要となってくると思われる。今後、他の学校などへの意識啓発にも繋がる取り組みであることから評価できる。



緊急避難速報放送中



避難時の様子



避難完了状況



気象台職員による講演

奨励賞

●活動部門(地域防災活動)

題名

岡の目地区防災訓練

所在地 松江市

活動主体 宍道町岡の目地区自治会 会長 佐藤 好信

提案概要

岡の目防災隊は、住民の隣保共同の精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、災害による被害の防止、及び地域の連帯を図ることを目的に、平成20年2月に結成した。

しかし、合併してからの新しい体制であり、一方、地区も高齢化が進んできていることから、防災隊の目的・意義を地区住民に周知し、緊急時に自主的に行動・活動できるようにする為、防災訓練を実施した。

防災訓練は、平成21年11月1日、午前9時から、大地震がきて避難勧告が出された状況を想定し行った。地区の自治会・老人会・婦人部・PTA・消防団等と連携し、全世帯(約120人)から住民の3分の2(約80人)の参加により行うことが出来た。

地区住民に根付くことを目指し、毎年継続的・計画的に実施することとしている。平成22年度は、AEDによる救急法・救急処置(三角巾・包帯法)・担架搬送訓練を行い、また火災報知器を共同購入し、消防団が秋季火災予防運動に併せ各家庭に火災報知器の配布を行った。

尚、地域住民に根付くことを目指し、毎年継続的・計画的に実施することとしている。

選定理由

自治会の高齢化や連帯意識の希薄化が指摘される中、住民の2/3が参加している点は評価される。また、地震発生時の被災者救助訓練や炊き出し活動など自治会内での連携や互助性を高める訓練内容も珍しい。消防職員や日本赤十字職員など外部から講師を招いており、内容の充実も見られる。今後の活動の継続性も期待できる。



救命救急訓練



避難・救助訓練



消火訓練



炊出し訓練

優秀賞

●活動部門(地域防災活動)

題名

防災活動(地震防災訓練)

所在地 松江市

活動主体 社会福祉法人 みずうみ 理事長 岩本 久人



うぐいす苑



すまいる苑

地震防災訓練

提案概要

当法人の各施設にて毎年度、年2回の避難訓練を行っており今年度も8月・11月と2回行いました。平成18年度から平成20年度まで3年間、市内全域において大規模な地震が発生した場合を想定した防災訓練を行いました。

平成18年度は、市内全域で震度5の地震が発生し1分間揺れが続いた上、市内ライフラインが不通となるといった想定で行い、地震発生直後の対応について訓練をしました。

内容としては、①災害対策本部設置、②各施設役割分担を決め火元責任者係・消火係・救護係・利用者安全係・通信連絡係が施設内の状況を把握し災害報告書を各施設長に提出、③各施設長が各係からの災害報告書を集約しまとめ災害対策本部に提出・報告までの防災訓練を行いました。

法人には、防災マニュアルが作成されていなかったのをこれを機会に防災マニュアルを作成いたしました。

平成22年度は年度末に実施を予定しており、平成23年度には、土砂災害を想定した防災訓練を計画しております。

選定理由

法人として、防災訓練を積極的に取り組んでいることが分かる。特に、防災訓練を年2回実施し、これを3年間継続している。また、訓練後に訓練結果についての検証を行い、防災組織体制や防災マニュアルの見直しを逐次されており、他の団体の模範となる内容である。



地震発生



負傷者救助



災害状況報告



実施後の検証